

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	有限会社ウシホ製作所 工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字突田64番1の一部 他20筆	構造	S造
用途地域	法第22条区域	平均居住人員	15 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年3月30日
敷地面積	8,055 m <sup>2</sup>	作成者	斉木俊介
建築面積	2,587 m <sup>2</sup>	確認日	2023年3月30日
延床面積	2,762 m <sup>2</sup>	確認者	斉木一三



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>7.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
有限会社ウシホ製作所 工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体	
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点		重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>									
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
<b>2 温熱環境</b>									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
<b>3 光・視環境</b>									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
<b>4 空気質環境</b>									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO <sub>2</sub> の監視									
2 喫煙の制御									
<b>Q2 サービス性能</b>									
<b>1 機能性</b>									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 パリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観 (天井高)									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
<b>2 耐用性・信頼性</b>									
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									
2 免震・制震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数									
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									
6 主要設備機器の更新必要間隔									
2.4 信頼性									
1 空調・換気設備									
2 給排水・衛生設備									
3 電気設備									
4 機械・配管支持方法									
5 通信・情報設備									

<b>3 対応性・更新性</b>				0.4	3.4	0.48	-	-	-	3.4
<b>3.1 空間のゆとり</b>				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高:3.9m以上	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.3未満0.1以上	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.57	-	-	-	2.1
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>					-	-	-	-	-	3.6
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40	-	-	-	4.1
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI=0.61	3.0	4.9	0.63	-	-	-	4.9
<b>4 効率的運用</b>				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30	-	-	-	3.1
<b>1 水資源保護</b>				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
<b>1.1 節水</b>			自動水栓に加えて節水型便器を採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				0.6	2.8	0.63	-	-	-	2.8
<b>2.1 材料使用量の削減</b>				-	3.0	0.07	-	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>				-	3.0	0.24	-	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>				-	3.0	0.20	-	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		独自		3.0	1.0	0.20	-	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>				3.0	3.0	0.05	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		独自	躯体と仕上材の分離が容易である	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		発泡系断熱材の採用はない	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30	-	-	-	3.4
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	ライフサイクルCO2排出率81%	-	3.7	0.33	-	-	-	3.7
<b>2 地域環境への配慮</b>				0.3	3.4	0.33	-	-	-	3.4
<b>2.1 大気汚染防止</b>			燃焼設備の採用はない。	-	5.0	0.25	-	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				-	3.0	0.50	-	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.22
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17
			外構緑化:7.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 有限会社ウシホ製作所 工場

計画上の配慮事項	
総合	・断熱性の高い材料の採用と高効率な設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。
Q1 室内環境	・評価対象外
Q2 サービス性能	・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。
Q3 室外環境(敷地内)	・敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。
LR1 エネルギー	・断熱性の高い材料を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。
LR3 敷地外環境	・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。
その他	-